NEC

ExpressUpdate Agent

インストレーションマニュアル

Document Rev.2.10

目次

商標について

ExpressUpdate は日本電気株式会社の登録商標です。EXPRESSBUILDER と ESMPRO、ExpressPicnic、CLUSTERPRO、EXPRESSSCOPE は日本電気株式会社の登録商標です。Microsoft、Windows、Windows Vista、Windows Server、Windows NT、MS-DOS は米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。Intel 、Pentium は米国 Intel Corporation の登録商標です。Xeon は米国 Intel Corporation の商標です。Linux は Linus Torvalds の米国およびその他の国における登録商標または商標です。Red Hat、Red Hat Enterprise Linux は、米国およびその他の国における Red Hat, Inc.の商標または登録商標です。MIRACLE LINUX の名称およびロゴは、ミラクル・リナックス株式会社が使用権許諾を受けている登録商標です。Asianux は、ミラクル・リナックス株式会社の日本における登録商標です。Adobe 、Adobe ロゴ、Acrobat は、Adobe Systems Incorporated（アドビシステムズ社）の登録商標または商標です。その他、記載の会社名および商品名は各社の商標または登録商標です。

Windows7 は、Windows® 7 Stater、Windows® 7 Home Basic、Windows® 7 Home Premium、Windows® 7 Professional、Windows® 7 Enterprise、Windows® 7 Ultimate の略称です。Windows Server 2008 R2 は、Microsoft® Windows Server® 2008 R2 Standard operating system、および Microsoft® Windows Server® 2008 R2 Enterprise operating system の略称です。Windows Server 2008 は、Microsoft® Windows Server® 2008 Standard operating system、Microsoft® Windows Server® 2008 Enterprise operating system、Microsoft® Windows Server® 2008 Standard 32-Bit operating system、および Microsoft® Windows Server® 2008 Enterprise 32-Bit operating system の略称です。Windows Vista は、Windows Vista® Business、Windows Vista® Home Basic、Windows Vista® Home Premium、Windows Vista® Enterprise、Windows Vista® Ultimate の略称です。Windows Server 2003 x64 Editions は Microsoft® Windows Server® 2003 R2, Standard x64 Edition operating system および Microsoft® Windows Server® 2003 R2, Enterprise x64 Edition operating system または、Microsoft® Windows Server® 2003 Standard x64 Edition operating system および Microsoft® Windows Server® 2003 Enterprise x64 Edition operating system の略称です。Windows Server 2003 は Microsoft® Windows Server® 2003 R2, Standard Edition operating system および Microsoft® Windows Server® 2003 R2, Enterprise Edition operating system または、Microsoft® Windows Server® 2003 Standard Edition operating system および Microsoft® Windows Server® 2003 Enterprise Edition operatingsystem の略称です。Windows XP は、Windows® XP Professional x64 Edition operating system および Windows® XP Professional operating system、Windows® XP Home Edition operating system の略称です。

本製品には、OpenSLP から無償で配布されている SLP(Service Location Protocol)、Apache Software Foundation から無償で配布されている Apache Axis2、Apache Rampart、および Jean-loup Gailly と Mark Adler から無償で配布されている zlib を含んでいます。これらの製品については、それぞれの使用許諾に同意した上で本製品をご利用願います。著作権、所有権、免責事項の詳細については以下のファイルを参照してください。

Apache ：/eu_agent/doc/ApacheLicense_v2.txt, ApacheNotice.txt
SLP ：/eu_agent/doc/OpenSLP_license.txt
zlib ：/eu_agent/doc/zlib_license.txt

■ ご注意

(1) 本書の内容の一部または全部を無断転載することは禁止されています。
(2) 本書の内容に関しては将来予告なしに変更することがあります。
(3) 弊社の許可なく複製・改変などを行うことはできません。
(4) 本書は内容について万全を期して作成いたしましたが、万一ご不審な点や誤り、記載もれなどお気づきのことがありましたら、お買い求めの販売店にご連絡ください。
(5) 運用した結果の影響については（4）項にかかわらず責任を負いかねますのでご了承ください。

本書について

本書では、「ExpressUpdate Agent」のインストール手順について説明しています。
ExpressUpdate Agent をご使用になる前に本書をよくお読みになり、正しくお使いになるようお願い申し上げます。

■ ご注意

本書での内容は、対象 OS の機能や操作方法およびネットワークの機能や設定方法について十分に理解されている方を対象に説明しています。対象 OS に関する操作や不明点については、各 OS のオンラインヘルプなどを参照してください。

本書では、管理対象装置全般について、汎用的に説明しています。管理対象装置の製品別の注意事項や制限事項は、管理対象装置に添付されているユーザーズガイドまたは「ESMPRO/ServerManager Ver5 セットアップガイド」を参照してください。

本書に掲載されている画面イメージ上に記載されている名称は、すべて架空のものです。実在する品名、団体名、個人名とは一切関係ありません。また、画面イメージ上の設定値は例であり、各設定値についての動作保証を行うものではありません。

■ 本書中の記号について

本文中では次の種類の記号を使用しています。それぞれの意味を示します。

重要：	**ソフトウェアや装置を取り扱う上で守らなければならない事柄や特に注意すべき点を示します。**
チェック：	**ソフトウェアや装置を取り扱う上で確認しておく必要がある点を示します。**
ヒント：	**知っておくと役に立つ情報や、便利なことなどを示します。**

第1章　ExpressUpdate Agentについて

ExpressUpdate Agent は、ESMPRO/ServerManager(Ver5.1 以降)で管理された管理対象装置で動作し、管理対象装置のファームウェアやソフトウェアなどのモジュールを、ESMPRO/ServerManager(Ver5.1 以降)によってリモートから更新することを可能とするソフトウェアです。

第2章　動作環境

ExpressUpdate Agent は管理対象装置にインストールしてください。
ExpressUpdate Agent を動作させることができる環境は以下のとおりです。

■ ハードウェア
ESMPRO/ServerManager(Ver5.1 以降)の管理対象装置で、かつ、以下の条件を満たしていることが必要です。

- **管理対象装置**
  - Express5800 シリーズおよび iStorage NS シリーズ。
- **メモリ**
  512MB 以上
- **ハードディスクの空き容量**
  300MB 以上

■ ソフトウェア

- **OS**

Microsoft Windows Server 2003 Standard Edition/Enterprise Edition (SP1 以降)
Microsoft Windows Server 2003 R2 Standard Edition/Enterprise Edition
Microsoft Windows Server 2003 Standard Edition/Enterprise Edition (x64 SP1 以降)
Microsoft Windows Server 2003 R2 Standard Edition/Enterprise Edition (x64)
Microsoft Windows Server 2008 Standard/Enterprise/ServerCore
Microsoft Windows Server 2008 Standard/Enterprise/ServerCore (x64)
Microsoft Windows Server 2008 R2 Standard/Enterprise/ServerCore (x64)

Microsoft Windows XP Professional (SP2 以降)
Microsoft Windows XP Professional (x64 SP2 以降)
Microsoft Windows Vista Ultimate/Business/Enterprise
Microsoft Windows Vista Ultimate/Business/Enterprise (x64)
Microsoft Windows 7 Ultimate/Professional/Enterprise
Microsoft Windows 7 Ultimate/Professional/Enterprise (x64)

Red Hat Enterprise Linux ES 4 (x86, x64)
Red Hat Enterprise Linux AS 4 (x86, x64)
Red Hat Enterprise Linux Advanced Platform 5 (x86, x64)
Red Hat Enterprise Linux Server 5 (x86, x64)
Miracle Linux 4.0 – Asianux Inside (x86, x64)
Asianux Server 3 ==MIRACLE LINUX V5 (x86, x64)

重要：

- 以下の環境の場合、ExpressUpdate Agent のインストールをサポートしていません。
  ・Hyper-V など仮想 OS 上でのインストール
- Windows Server 2008 R2 Server Core 環境の場合、Wow6432Node をアンインストールすると、ExpressUpdate Agent を正常にインストールすることができません。ExpressUpdate Agent をインストールする場合は、Wow6432Node をアンインストールしないでください。

- **その他**

ExpressUpdate Agent を利用するために、以下のソフトウェアがインストールされます。
・OpenSLP (ExpressUpdate Agent が自動的にインストールします。)

チェック：

- ExpressUpdate Agent の新規インストール時に、OpenSLP が既にインストールされている場合は、ExpressUpdate Agent をインストールすることができません。OpenSLP をアンインストールしてから実行してください。
  但し、Universal RAID Utility Ver 2.10 以上が既にインストールされている場合は、OpenSLP をアンインストールする必要はありません。
- ExpressUpdate Agent は他の SLP ソフトウェアがインストールされていると、正常に動作しない可能性があります。ExpressUpdate Agent をインストールする前に、他の SLP ソフトウェアはアンインストールしてください。
- ExpressUpdate Agent の新規インストール時に、Axis2c 環境がインストールされている場合は、ExpressUpdate Agent をインストールすることができません。Axis2c 環境をアンインストールしてから実行してください。
- ExpressUpdate Agent を使ってモジュール管理を行う場合には、管理対象装置の OS によって、以下の ESMPRO/ServerManager が必要となります。
  < ExpressUpdate Agent (Windows)を使用する場合 >
  ・ESMPRO/ServerManager (Windows)　Ver5.1 以降
  ・ESMPRO/ServerManager (Liunx)　Ver5.1 以降
  < ExpressUpdate Agent (Linux)を使用する場合 >
  ・ESMPRO/ServerManager(Windows)　Ver5.21 以降
  ・ESMPRO/ServerManager(Liunx)　Ver5.14 以降
  ESMPRO/ServerManager の機能に関する詳細については、「ESMPRO/ServerManager Ver5 セットアップガイド」を参照してください。

第3章　ExpressUpdate Agentのインストール

3.1　ExpressUpdate Agentのインストール(Windows)

ExpressUpdate Agent をインストールする場合について説明します。

3.1.1　インストールを始める前に

ExpressUpdate Agent のインストールを始める前に、以下のことを確認してください。
・2 章の動作環境を満たしていること。
・Administrator 権限で Windows にログインしていること。

3.1.2　インストールメニューの起動

■　ダウンロードしたモジュールを使ってインストールする場合

ダウンロードしたファイルを展開した後に、以下のファイルを実行してください。ExpressUpdate Agent のインストールが開始されます。

¥eu_agent¥setup.exe

■　**EXPRESSBUILDER を使ってインストールする場合**

以下の手順で ExpressUpdate Agent のインストールを実行してください。

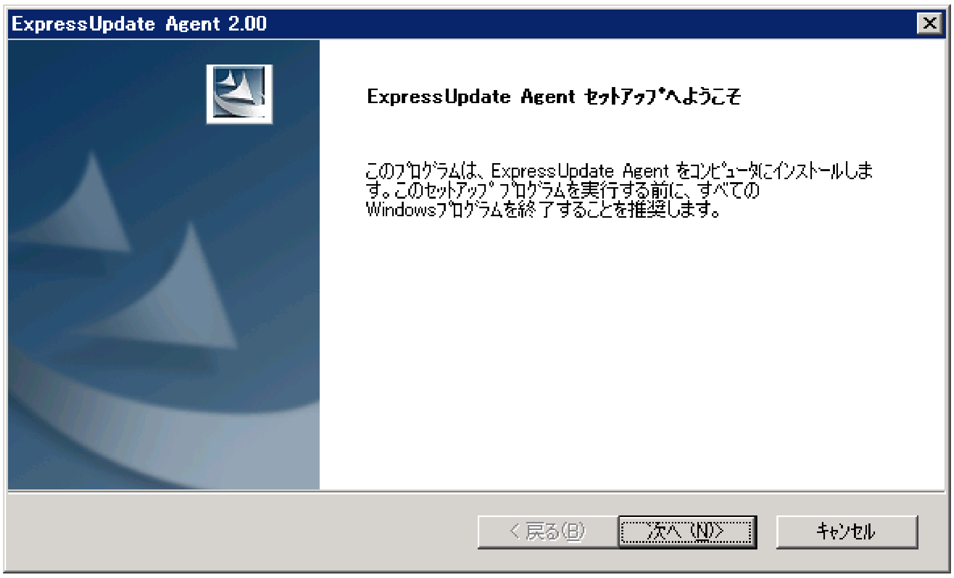
(1) Windows が起動している管理対象装置上で、EXPRESSBUILDER を DVD ドライブにセットしてください。オートラン機能によりメニューが表示されます。

(2) 「ESMPRO セットアップ」から「関連ユーティリティ」-「ExpressUpdate Agent」をクリックしてください。ExpressUpdate Agent のインストールが開始されます。

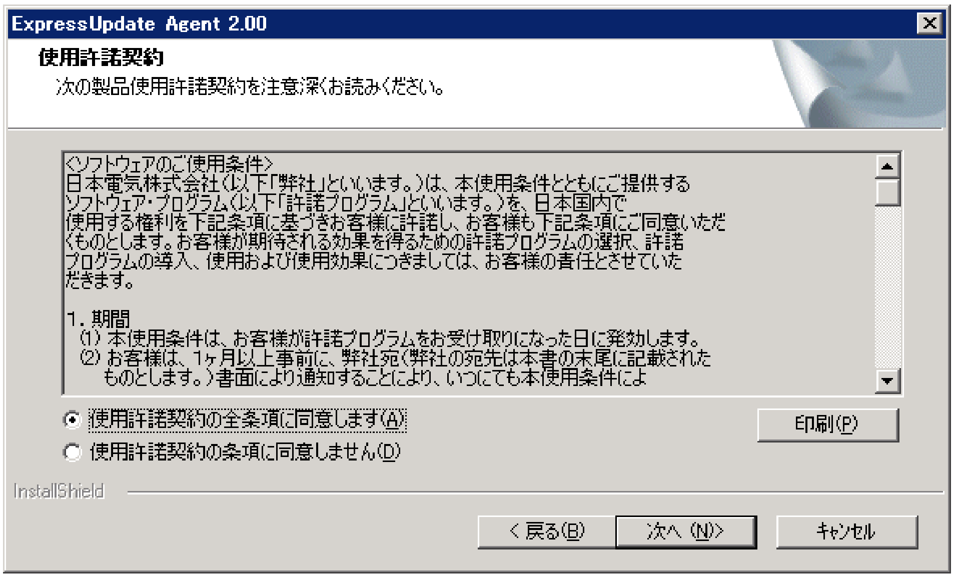
3.1.3　ExpressUpdate Agentのインストール

ExpressUpdate Agent をインストールします。

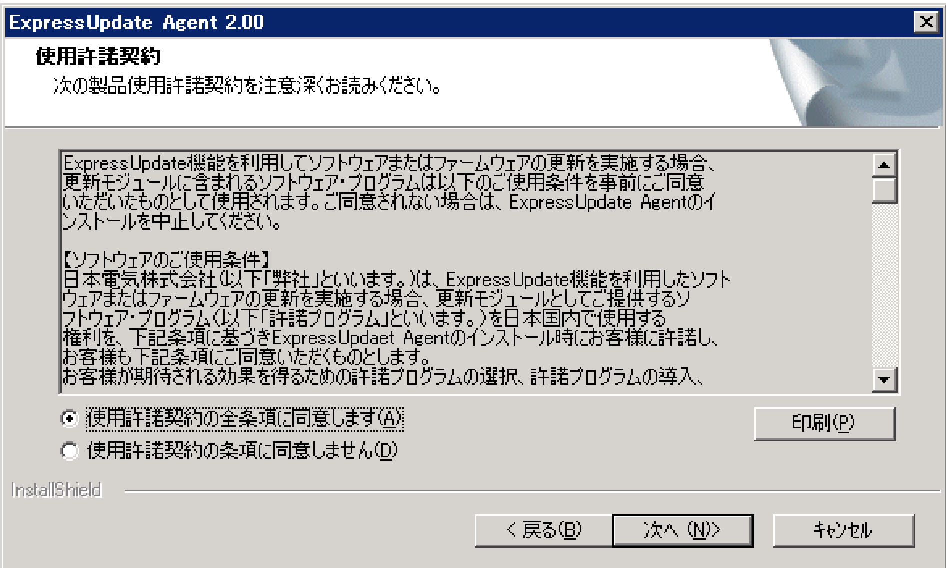
(1)　ExpressUpdate Agent のインストーラが起動します。「次へ」ボタンをクリックしてください。



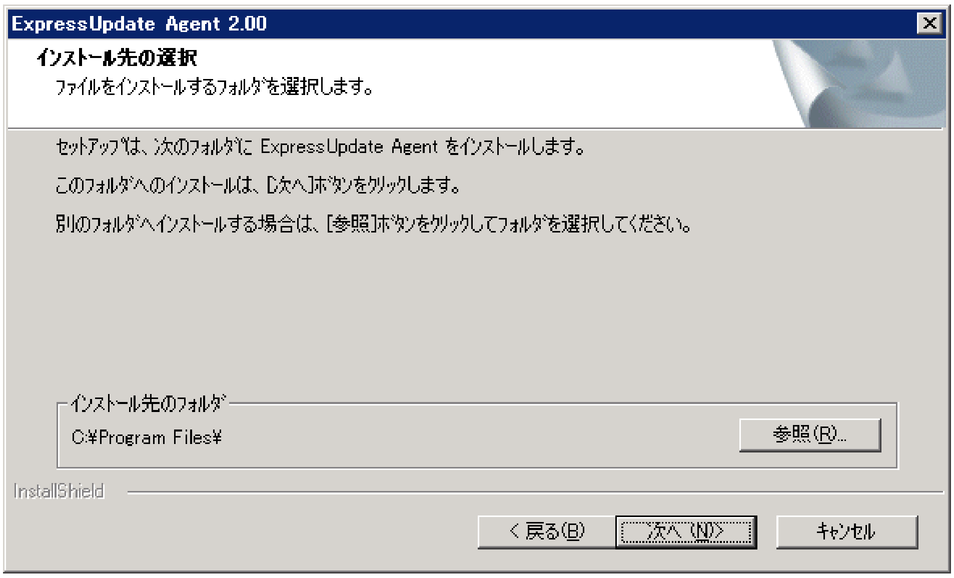
(2) ExpressUpdate Agent に対する使用許諾を熟読の上、「使用許諾契約の全条項に同意します」を選択し、「次へ」ボタンをクリックしてください。



(3) 更新モジュールに対する使用許諾を熟読の上、「使用許諾契約の全条項に同意します」を選択し、「次へ」ボタンをクリックしてください。



(4) インストール先のディレクトリを入力し、「次へ」ボタンをクリックしてください。



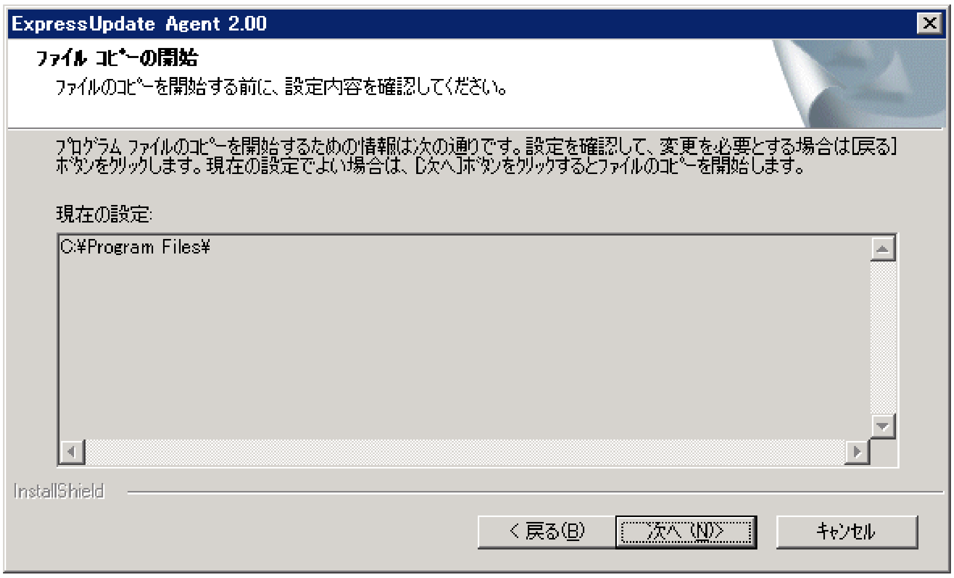
チェック：

- Universal RAID Utility Ver 2.10 以上が既にインストールされている場合は、上記画面は表示されないため、インストール先を選択することはできません。

ヒント：

- 上記画面が表示されない場合は、以下にインストールされることになります。
  <x86 の場合>
  <システムドライブ>¥ Program Files¥axis2c¥bin
  <x64 の場合>
  <システムドライブ>¥ Program Files (x86)¥axis2c¥bin

(5) 設定した内容を確認し、「次へ」ボタンをクリックしてください。インストールが開始されます。



重要：

- OS の再起動を促す画面が表示された場合は、指示に従い OS を再起動してください。

ヒント：

- インストール完了後、以下の方法で ExpressUpdate Agent が正常にインストールされたかどうかを確認できます。
  「管理ツール」-「サービス」をクリックし、「eciService」、「ExpressUpdate Agent」、「Service Location Protocol」が開始状態になっていれば、インストールは正常に完了しています。

3.2 ExpressUpdate Agentのアンインストール(Windows)

ExpressUpdate Agent をアンインストールする場合について説明します。

3.2.1 アンインストールを始める前に

ExpressUpdate Agent のアンインストールを始める前に、以下のことを確認してください。
・Administrator 権限で Windows にログインしていること。

3.2.2 ExpressUpdate Agentのアンインストール

Windows の「コントロールパネル」の「プログラムの追加と削除」からアンインストールします。「ExpressUpdate Agent」を選択し、「変更と削除」ボタンをクリックしてください。表示される指示に従ってアンインストールしてください。

チェック：

- OS が Server Core の場合は、インストール時に使用したインストーラを、以下のコマンドをつけて実行することで、アンインストールを実行することができます。
  <実行コマンド>
  setup.exe /z"UNINSTALL"

3.3 ExpressUpdate Agentのインストール(Linux)

ExpressUpdate Agent をインストールする場合について説明します。

3.3.1 インストールを始める前に

ExpressUpdate Agent のインストールを始める前に、以下のことを確認してください。
・2 章の動作環境を満たしていること。
・root ユーザでログインするか、su コマンドなどにより root 権限を得ていること。

チェック：

- ExpressUpdate Agent インストーラの格納場所は下記の通りです。
  ダウンロードしたモジュールを使ってインストールする場合：/eu_agent
  EXPRESSBUILDER の場合：
  「EXPRESSBUILDER のリビジョンを示すディレクトリ」/lnx/pp/eu_agent
  (例：001/lnx/pp/eu_agent)

3.3.2 インストーラのコピーと展開

ExpressUpdate Agent のインストーラ(/eu_agent ディレクトリに格納されているすべてのファイル及びディレクトリ)を、管理対象装置の任意のディレクトリにコピーしてください。
以下は/usr/local/bin にコピーする場合の例です。

(1) /usr/local/bin 配下に/ExpressUpdate ディレクトリを作成してください。

```
mkdir -p /usr/local/bin/ExpressUpdate
```

(2) eu_agent ディレクトリを/usr/local/bin/ExpressUpdate にコピーしてください。

(3) インストーラをコピーしたディレクトリに移動してください。

```
cd /usr/local/bin/ExpressUpdate/eu_agent
```

(4) インストーラを展開してください。

```
tar xzvf ExpressUpdateAgent-N.NN-x.tgz
```

ファイル名の「N.NN」で示した部分は、バージョン毎に異なります。

3.3.3 ExpressUpdate Agentのインストール

ExpressUpdate Agent をインストールします。

(1) インストーラを展開したディレクトリに移動してください。

```
cd /usr/local/bin/ExpressUpdate/eu_agent/ExpressUpdateAgent-N.NN-x
```

ディレクトリ名の「N.NN」で示した部分は、バージョン毎に異なります。

(2) 以下のシェルファイルを実行してください。

```
./ExpressUpdateAgent-N.NN-x.sh
```

ファイル名の「N.NN」で示した部分は、バージョン毎に異なります。

(3) ExpressUpdate Agent のインストール確認が表示されます。「yes」を入力し、Enter キーを押下してください。「no」を入力した場合、インストールはここで終了します。

(4) 製品の使用許諾契約が表示されます。契約内容を注意深くお読みになり、契約に同意する場合は「yes」を入力し、Enter キーを押下してください。「no」を入力した場合、インストールはここで終了します。
ExpressUpdate Agent は、/opt/nec/axis2c 配下にインストールされます。

インストールが完了すると、以下のメッセージが表示されます。
「ExpressUpdate Agent のインストールが完了しました。」
インストールを完了すると、ExpressUpdate Agent が開始され、いつでも使用できるようになります。

チェック：

- インストール時に使用したファイルは、アンインストール時にも使用しますので、削除しないでください。

ヒント：

- インストール完了後、以下のコマンドで ExpressUpdate Agent が正常にインストールされたかどうかを確認できます。
  ps -ef | gerp axis2c

  上記コマンドの実行結果として、以下がすべて表示されれば、正しくインストールされています。
  /opt/nec/axis2c/bin/slpd
  /opt/nec/axis2c/bin/eciServiceProgram
  /opt/nec/axis2c/bin/axis2_http_server
  /opt/nec/axis2c/bin/EUAgent

3.4 ExpressUpdate Agentのアンインストール(Linux)

ExpressUpdate Agent をアンインストールする場合について説明します。

3.4.1 アンインストールを始める前に

ExpressUpdate Agent のアンインストールを始める前に、以下のことを確認してください。
・root ユーザでログインするか、su コマンドなどにより root 権限を得ていること。

3.4.2 ExpressUpdate Agentのアンインストール

ExpressUpdate Agent をアンインストールします。

(1) インストール時に、インストーラを展開したディレクトリに移動してください。

```
cd /usr/local/bin/ExpressUpdate/eu_agent/ExpressUpdateAgent-N.NN-x
```

ディレクトリ名の「N.NN」で示した部分は、バージョン毎に異なります。

(2) 以下のシェルファイルを実行してください。

```
./ExpressUpdateAgent-N.NN-x.sh
```

ファイル名の「N.NN」で示した部分はバージョン毎に異なります。

(3) ExpressUpdate Agent のアンインストール確認が表示されます。「delete」を入力し、Enter キーを押下してください。

アンインストールが完了すると、以下のメッセージが表示されます。
「ExpressUpdate Agent のアンインストールが完了しました。」

第4章　注意事項

4.1　インストールについて

- ExpressUpdate Agent は、現在インストールされているバージョンから古いバージョンへダウングレードできません。古いバージョンを使用する場合は、一旦アンインストールしてから、再度インストールしてください。但し、アンインストールすると、それまでの情報はすべて削除されますのでご注意ください。

- ExpressUpdate Agent (Windows)を CD-ROM 等の媒体上のインストーラを使用してアップグレードするときに、ディスクを要求するメッセージが表示されて、アップグレードできない場合があります。この場合、CD-ROM 等の媒体からハードディスク上にインストーラをコピーしてからアップグレードしてください。

- ExpressUpdate Agent の新規インストール時に、Axis2c 環境がインストールされていないにも関わらず、既存の Axis2c 環境と共存できない旨のメッセージが表示され、インストールできない場合は、以下のようにしてください。

  ○Windows の場合
  環境変数「AXIS2C_HOME」を削除してからインストールを実行してください。
  既に削除されている場合は、OS を再起動後インストールを実行してください。

  ○Linux の場合
  axis2_http_server プロセスが動作している可能性があります。
  axis2_http_server プロセスを停止してからインストールを実行してください。

4.2　OSのIPを変更した場合について

管理対象装置の OS の IP アドレスを変更した場合は、ExpressUpdate Agent が変更後の IP アドレスを認識するために、ExpressUpdate Agent の実行に必要な機能を自動的に再起動し、最新の状態に更新します。

4.3　Windowsファイアウォールについて

ExpressUpdate Agent は、インストール時に管理対象装置のファイアウォール例外プログラムとして、以下を自動で登録します。

- axis2_http_server
- slpd

4.4　Linuxファイアウォールについて

ExpressUpdate Agent は起動時にファイアウォールに対する設定を行っています。ExpressUpdate Agent 起動後に、ファイアウォールの設定を無効から有効に変更した場合や、セキュリティレベルの設定画面でファイアウォールの設定を変更した場合は、ExpressUpdate Agent のファイアウォール設定が無効になります。
この場合、以下の手順でシェルスクリプトを実行すれば、ExpressUpdate Agent のファイアウォール設定が再設定されます。

(1) root ユーザでログインするか、su コマンドなどにより root 権限を得てください。

(2) シェルスクリプトが存在するディレクトリに移動してください。

```
cd /opt/nec/axis2c/bin
```

(3) 以下のシェルスクリプトを実行してください。

```
./eci_setport.sh
```

4.5　管理対象装置のサーバマネージメントドライバについて

管理対象装置に EXPRESSSCOPE エンジン/EXPRESSSCOPE エンジン２が搭載されているにもかかわらず、BMC ファームウェアの現在のバージョンが「Unknown」と表示されている場合、管理対象装置にサーバマネージメントドライバがインストールされていない事が考えられます。この場合は BMC ファームウェア更新パッケージの適用を行うことができません。以下の手順に従ってサーバマネージメントドライバのインストールを行ってください。

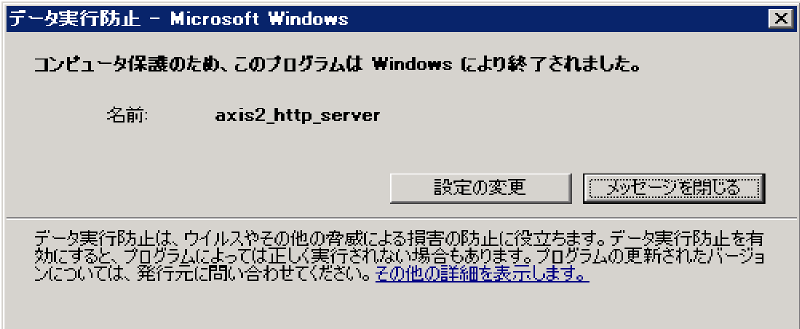
〇Windows の場合
EXPRESSBUILDER のメニューからシステムのアップデートを実行してください。

〇Linux の場合
以下のサイトから、ご使用の管理対象装置とカーネルバージョンに対応したサーバマネージメントドライバをダウンロードし、インストールを行ってください。

http://www.express.nec.co.jp/linux/dload/esmpro/index.html

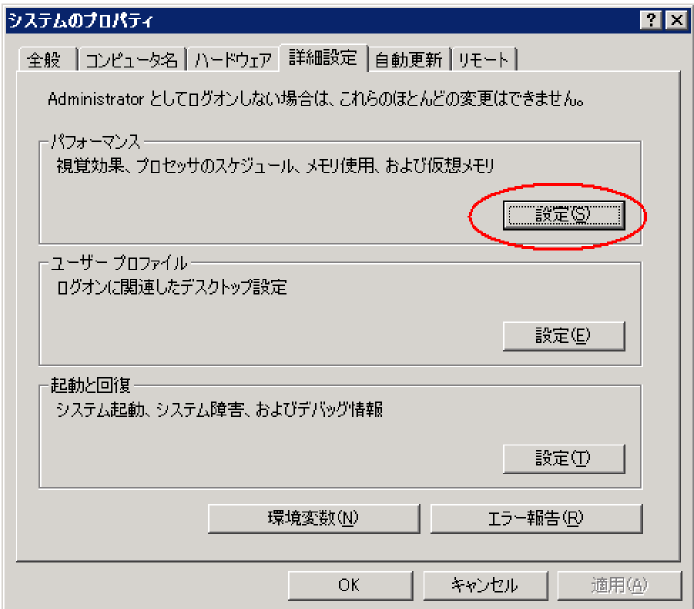
4.6 Windowsデータ実行防止機能(DEP)について

ExpressUpdate Agent を使用中に、Windows のデータ実行防止機能(DEP)のために、以下のようなダイアログが表示されることがあります。

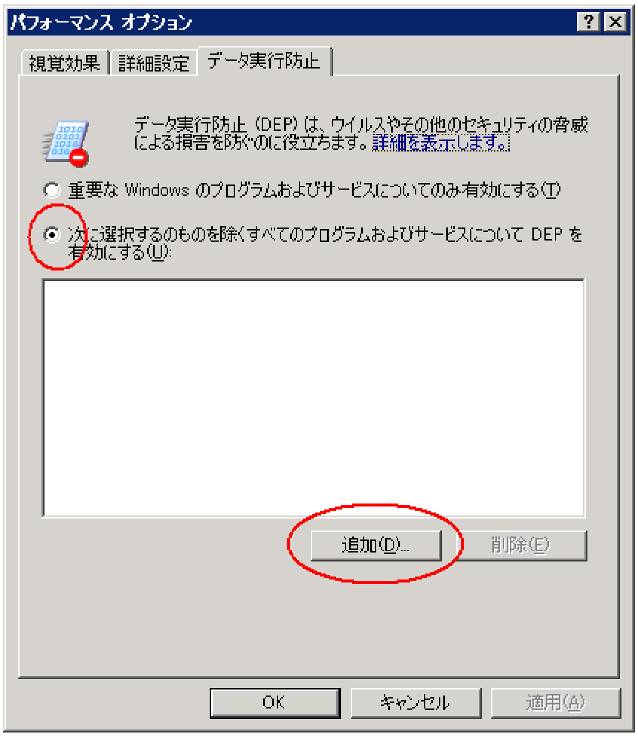


この場合、管理対象装置で以下の設定を行って、プログラムを DEP の対象外に設定してください。

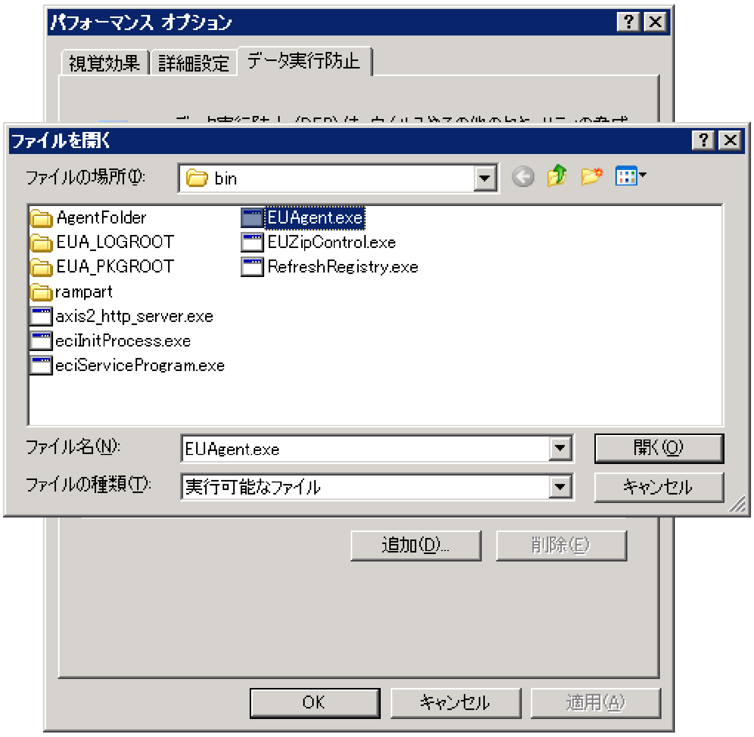
(1) Windows の「マイコンピュータ」を右クリックし、「プロパティ」をクリックしてください。
(2) システムのプロパティ「詳細設定」タブ内にある「パフォーマンス」の「設定」ボタンをクリックしてください。



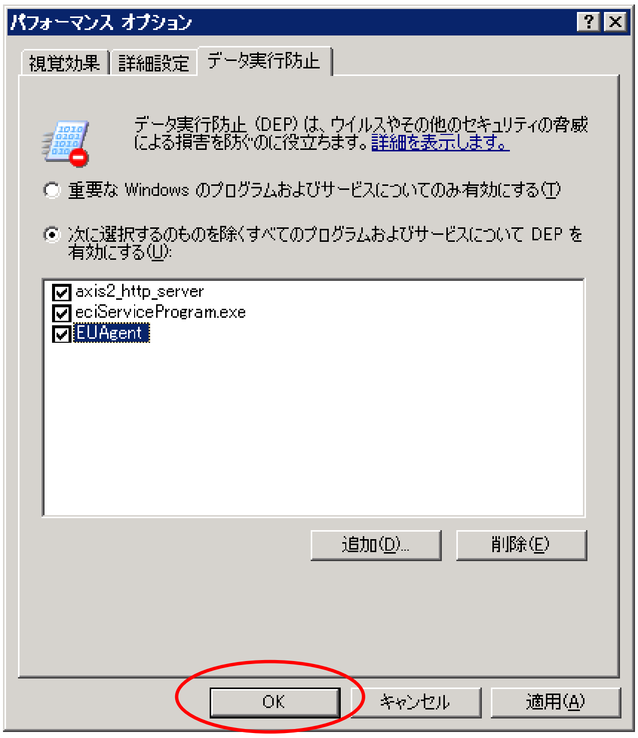
(3) パフォーマンスオプションの「データ実行防止」タブ内にある「次に選択するものを除くすべてのプログラムおよびサービスについて DEP を有効にする」を選択し、「追加」ボタンをクリックしてください。。



(4) 開かれたダイアログから、ExpressUpdate Agent がインストールされているディレクトリに移動し、「EUAgent.exe」を選択し、「開く」ボタンをクリックしてください。
同様のことを、「eciServiceProgram」、「axis2_http_server」でも行ってください。



(5) 以下のような画面になっていることを確認し、「OK」ボタンをクリックしてください。



(6) OS の再起動が要求された場合は、OS を再起動してください。

Revision History

1.00	2009/02/04	**新規作成**
1.01	2009/02/12	Apache Software Foundation **の** LICENSE **条文を修正**
2.00	2009/09/29	**誤記修正** **動作環境を修正** **注意事項を追加** **ライセンスファイルの記載を修正**
2.10	2009/10/08	ExpressUpdate Agent(Linux)**のインストール／アンインストール手順を追加** ExpressUpdate Agent **をダウンロードした場合の手順を追加** **動作環境を追加及び修正** **注意事項を追加及び修正** **ライセンスファイルの記載を修正** **誤記修正**